

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	(事務局用)	家庭養護の推進	中野区
アイデア名 (公開)	地域とつながる「子育て」と「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	チャレンジ中野！Grow Happy Family & Community		
チーム属性 (公開)	☒ 1. 市民によるチーム ☐ 2. 学生によるチーム ☐ 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	齋藤直巨	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

地域とつながる「子育て」&「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～

里親になって初めて知ったことがあります。

それは、子どもが「捨てられたんだ、いない子なんだ」と思いながら施設で暮らしていたこと。

「一緒に暮らしたい。でも出来ない」と、苦しんだ末に我が子を手放す親がいること。

行政の立場から「助けたくても、助ける為の選択肢がない」と、人知れず悲しんでいた担当者がいること。



今の日本では、約 4 万 6 千人の子どもが様々な理由で親から離れ、8 割以上の子どもは養護施設で暮らしています。0 歳から 18 歳まで施設で育った場合、1 人当たり 7～8 千万円の税金を使いながら、しかし、家庭人としてのロールモデルを獲得できずに育っているのです。親との分離や虐待の影響で傷ついた心の問題が原因となり、自立後のドラッグ依存、精神疾患、犯罪、さらには生活保護という支援が必要になっている状況があります。奨学金を得て進学してもアルバイトとの両立が難しく中退したり、就職したとしても一年目の離職率は 4 割に及び、社会的な負担は増えていく一方です。子どもと親の問題は、税金を支払っている私達すべての将来にも影響する社会問題なのです。

その問題を解決するには、何が必要なのでしょう？

■ 親権を持たず、子どもの健やかな成長を守る、里親は子ども応援団！

子どもの心の大きな傷になる親子分離・虐待を最小限にとどめ、地域で幸せに育つ親と子を増やす事が一番の解決策になります。その為には、なるべく親元で育てられるように子育ての仲間となる地域サポーターとして、また、親元で育つ事が困難な場合は親権を持たない「育ての親」として、貴重な地域資源である里親を増やしていく必要があります。

親と離れなければならない時、地域・学校・友人などの他の全ての絆を一気に断ち切られたら、子どもの心が受けるダメージはどれほど大きいでしょう。里親家庭で、地域での関係を維持して成長できれば、子どもの心に代えがたい礎となります。

■ 児相移管で実現する、新しいライフスタイルとしての「ファミサポ→里親」

日本には「ご近所に一緒に育ててもらおう」という大らかな考え方がありました。責任が重くチャレンジしにくいと思われる里親も、ご近所みんなで子育てする伝統的なスタイルであれば、皆が自然にその役割の一端を担える形になるでしょう。

児相移管で実現可能になった「ファミリーサポートから里親への段階的な制度」に整えることで、それぞれの経験に合わせた形で市民がサポーターとして関われるようになります。市民が参加・協力しやすく、子育てサポーターから育ての親へと無理なくレベルアップしていけることで、子育て経験者や子育て中のママが活躍する新たな働き方を創出できます。

子ども時代を守ることは、未来への投資！

「自分は守られて育った」という充足感を持つと、自己肯定感が高まり、しあわせな気持ちで愛情を受けた親や地域へ貢献したいという意欲へ育ちます。それこそが、将来元気に働く健全な納税者になるための原動力となるでしょう。

未来の社会的な財政負担を軽減し、財源を増やし、持続可能な社会を形作る一番の解決策にもなるのです。

鮭の遡上のように、子どもが安心して舞い戻り、子育てしてくれる故郷・中野へ進化させるため、ママからファミサポ、ファミサポから里親へのステップで里親を増やし、子育て支援を整えていきましょう。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

1) 社会的養護の課題

[現在の状況]

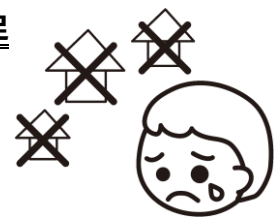
- ① 児童虐待の増加と受け入れ先の絶対的な不足：H26 年虐待相談 **88,931 件** vs 受入 45,677 件
出展：「社会的養護の課題と将来像の実現に向けて」H28.7 月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課発行
 - ② 施設養護にかかる一人当たりコスト：施設 **約 400～700 万円/年** vs 里親 約 200～300 万円/年
算出基礎数字：平成二十七年東京都議会会議録第十一号
平成 27 年第二回都議会定例会上田令子議員の文書質問に対する答弁書 質問事項一の 3 回答
 - ③ 施設養護と里親養護：施設 **34,008 人** vs 里親/ファミリーホーム 5,903 人
出展：「社会的養護の課題と将来像の実現に向けて」H28.7 月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課発行
 - ④ 施設養護の課題
 - 家庭生活で身につける、「個人の家庭生活や社会との関わりの中で生きる技術」の体得が難しい。
 - 個人の自己確立に大切な、愛着の対象となる大人（親のようにずっと見守ってくれる大人）をつくるのが難しい（職員との相性や移動・退職、乳児院から養護施設への移動など）。
 - 措置解除後に身一つで社会で生きることを強いられ、普通の家庭で育つ子どもの踏む段階的な独立のステップを踏めない。
 - 実親からの保護と措置の際に、子どもが生きるうえで大切な財産である地域コミュニティや学校・友達などが全て失われ、子どもの心に深いトラウマとなるケースが多い。
 - 心にトラウマを持った子ども同士の集団生活の難しさ。それにより起こる施設内の問題。
- ⇒ 結果として、自立後、生活保護などに陥ったり、貧困の連鎖を起こしやすい。
- 勤続 1 年未満の退職率 **40.6%** / 生活保護受給率（受給中・過去受給） **13.9%**
「東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書」 H23 年 8 月 東京都福祉保健局 調査

[近い将来発生する問題]

- ⑤ 児童相談所の各区設立に伴う、保護児童の地域受け入れ先の不足
- ⑥ 家庭養護リソース（里親）の不足

< 中野区の現状 > 人口約 31 万人中

- 虐待相談 **485 件** H27 年度 中野区子ども家庭支援センター実績
- 里親登録 **12 家庭** ● 施設 乳児院 2 定員計 **170 名** 児童養護施設 2 定員計 **100 名**



[社会的養護だけでない現代社会の子育ての課題]

- ① 児童虐待の増加：H7 年 **1961 件** → H27 年 **103,260 件（20 年間で約 50 倍！）**
「社会的養護の課題と将来像の実現に向けて」、「平成 27 年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値)」厚生労働省
 - ② 核家族化、ひとり親世帯の増加：三世帯世帯 S61 年 全世帯中 **15.3%** → H25 年 **6.6%**
ひとり親世帯 S61 年 全世帯中 **5.1%** → H25 年 **7.2%**
H26 年「国民生活基礎調査の結果から グラフでみる世帯の状況」厚生労働大臣官房統計情報部
 - ③ 孤立した子育てが母親を追い詰め、虐待に結び付く可能性（NHK スペシャル「ママ達が非常事態」2016 年放映）
- ⇒ 母親の孤独感、逃げ場がない/息抜きできない、子育ての知識・技術を知らない不安

2) 解決策

現在ある子育て支援システム（ファミリーサポート制度と里親制度）を結びつけることで、地域の子育て環境全体を整え、「地域に眠っているポテンシャル資源を発掘し、成長させ、活用する」循環システムを構築する。

< 期待効果 > ★子どもの幸福な育ち環境の充実による★

○社会コストの削減

- ・子どもの健全な成長により将来の生活保護等の社会コストを軽減し、健全な納税者を育てる。
- ・里親養護を増やすことにより、施設養護にかかるコストの削減が見込まれる。

○地域活性化

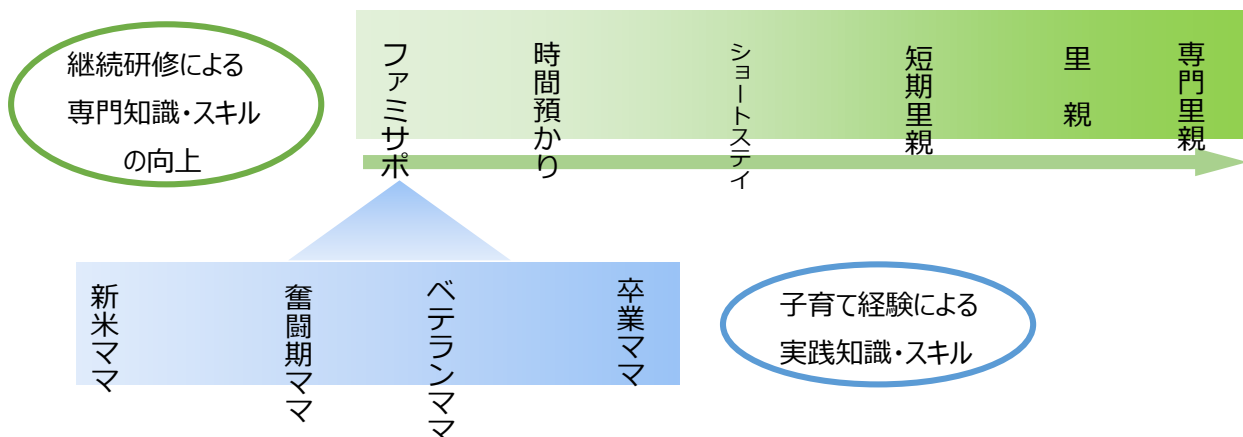
- ・地域全体での良好な子育て/育ち体験の循環により、地域への愛着の醸成
- ・子育て世代に魅力ある居住地となり、住民の流入を促す。

[埋もれている資源と活用価値]

	地域/家庭に埋もれている力	資源としての活用価値
①	子育てに関する、経験による 実地的な知識や技術	子育て書などの標準的な知識ではわからない、本当に困ったときの 実践的アドバイス
②	サポートに使える 隙間時間と労力	大忙しのママの時間創出： お母さんが少しの用事をできる時間、 息抜きの時間 を必要ときにつくれる
③	それぞれの家庭の物理的なスペース	安心・安全な子どもの居場所
④	当事者や先輩としての 共感やつながり感 による感情的なサポート力	「大変さ/辛さをわかってもらえる」ことによる、ママたちの 孤独感、不安感の軽減・解消
⑤	子育てにより培われた 傾聴力	自分からは助けを求められない/気づけない： → ピンチや危機的状況をキャッチ
⑥	里親が個別に受けている 研修による専門的な知識や技術	世襲モデル以外の専門性のある子育て知識と技術

[子育て支援力（資源力）のステップアップモデル]

- ファミサポを入り口として、里親候補者をリクルート。
- 段階的な経験と研修により、無理なく、適性に合わせた支援者/里親に成長。
- ママたちの時間と知識・能力を活かした、新たな働き方の創出。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

[アイデア実現のステップ]

第1フェーズ（児相移管まで）

第1ステップ		第2ステップ		第3ステップ
地域あため事業 （広報）	→	子育てステーション事業 （相談/支援） ★行政、民間 NPO など 支援集合ステーション	→	地域資源エージェント事業 （人材開発・情報バンク）
① 公共機関向け社会的養護 対応マニュアル		① 子育てコーディネーター養成		① ファミサポ研修プログラム開発
② 公共機関研修		② 子育てステーション開設		② 里親・養親研修プログラム開発
③ ダイバーシティ学校教育		③ 支援者ケアルーム開設 （支援側の心のケア）		③ データ蓄積システム & アプリ 開発
④ 地域交流イベント アートイベント等				④ 人材リクルートのルート開拓 （ファミサポ以外）

※各事業は相互に関連し同時に発展するため、完全な時系列のステップとはなりません。

< タイムラインのイメージ >



第2フェーズ（地域主体・住民と行政一体型の子育てシステム）

- ① ファミサポと里親をつなぐ一環の研修・認定制度
- ② 支援リソース情報バンク
- ③ 子育て支援マッチングシステム
- ④ 行政との協働による、子育て支援有償就労の制度化



(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的にxxという制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

[アイデアのポイント]

- A. ファミサポを里親リクルートの入り口にする。
- B. 研修や経験で体得された里親の知識・技術を地域の子育て支援に活かす。
- ・里親の経験知が蓄積・共有されず、一代限りの情報で消失している。そのため、新しい里親に対して似たような不備がおきたり、情報共有で回避できるはずの困難な状況を回避できていない、などの問題を解消。
 - ・支援を受ける側が、同じ思いの経験者からのアドバイスや支援を受けられる。
- C. 子育てを地域のチームで行う。（支援されるお母さんが自分のチームをカスタマイズできる）

[アイデア実現の際の制約・当面の解決策・発展可能性]

ポイントAに対して

（制約）行政の管轄区の違い（地域のファミサポ vs 都の里親）

（当面の対策）2020 年の中野区の子相移管をターゲットに、2019 年までは地域の条件を整える活動*1を行い、移管の年までに里親候補のトレーニングを進めておく。

ポイントBに対して

（制約）里親/里子であるという情報を、心情的にオープンにできない里親がいる

・差別やイジメに対する不安感 / ・子どもがかわいそうで真実告知ができない

（対策）① 里親になる前の研修で、子どもの最善の利益に合う「真実告知」の意味を説明し、考えさせ、議論させることで、十分に理解・納得させる。→ 方針の提言

② 個人の出自や家族の構成員の多様性を当然のこととして周知させる。→ イメージアップのプロモーション、教育参加による啓発を行う*2

ポイントCに対して

（制約）① 人（支援リソース）をつなぐコーディネーター/スーパーバイザーがいない（地域のハブ）

② 研修制度が整っていなかったり、支援者側（里親や施設職員）の心のケアの必要性が十分に認識されておらず、サポート体制が整っていない

（当面の対策）本プロジェクトのコアメンバーがハブ機能を担う

・当面は区内に1箇所の子育てステーションを開設し、傾聴やマッチングの機能を果たしつつ情報を蓄積する。

（発展可能性）支援リソースの情報が蓄積された時点で、「MY 子育てチーム作成」アプリを開発*3

・子育てステーション活動と平行でスマホ端末から気軽に悩みや困りごと解決をできるしくみに。「わざわざ相談する」という億劫さを取り除くことによる普及拡大を狙う。

*1 *2 *3: 2-(3) アイデアまでの流れ 及び 非公開項目参照